

令和6年度 江戸川区立大杉小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標		◎すすんでとりくむ子（知） ○おもいやりのある子（徳） ○けんこうな子（体）						目指す学校像 目指す子供像 目指す教師像		「明日も行きたくなる、みんなの学校」 ①自分の考えをもち、目標に向かって歩み続ける子 ②ともに認め合い、助け合い、高め合う子 ③健康で安全な生活を心がけ、すすんで運動する子 ①子供を深く理解し、情熱をもって育てられる教師 ②着実に準備し、よくわかる・楽しい授業に努める教師 ③教育公務員としての自覚と責任をもち、子ども・保護者・地域から信頼される教師					
前年度までの本校の現状		成果	・軽微ないじめも積極的に認知、早期対応、早期解決を組織で行い、重大事態にならなかった。 ・不登校が〇であったこと。 ・全教職員が「安全・安心な学校」の共通理解し、大きな事故、事件もなかった。						課題	・児童の学力の向上に向けた具体的施策と教師の授業力向上と授業改善 ・児童の体力の向上に向けた具体的施策と教師の授業力向上と授業改善 ・学校組織の強化					
重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案	
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント		
学力の向上	○授業改善の推進と基礎・基本の力の定着	・授業準備（板書計画・発問等）を確実に行之、「わかった」「できた」「楽しい」の授業改善を行っているかを授業観察で確認する。	・年間3回以上の授業観察による指導 ・各学年で、東京BDの正答率70%以上を目指す。	C	B	C	・現在2回の授業観察を実施、授業改善を図っている。 ・東京BDは2年68.9%、3年40.5%、4年73.3%、5年62.6%、6年60.9%である。	C	・70%の目標達成まであと少しまできている。これは先生方及び子どもたちの努力の結果。年度末までには全学年で目標を達成して欲しい。	B	・「わかった」「できた」「楽しい」の授業づくりに力を入れ、ICTを活用したり、話し合い活動を取り入れたりと改善が見られた。子どもたちも自主的に学習する姿が多く見られるようになった。	A	・学校公開での授業を通して、年度当初とは違って、子どもたちが楽しく、話し合っている姿をたくさん見られた。先生方が授業を工夫して行っていた。	・今年度の取組を継続し、授業の最後に児童の「振り返り」の時間を確保するようにする。	
		・学校独自の取組である九九検定、漢字王を実施し、基礎学力の定着を図る。	・大杉小独自の検定を行い、70%以上の合格者を目指す。	C	A	C	・九九検定合格者は244人中112名で45.9%（9月末） ・漢字王は2学期中に実施予定	C	・新たな取組であり、九九と漢字の学習はとても大切。全員合格を期待している。	A	・九九検定合格者は244人中230名で94.2%（3月末） ・漢字王も実施し、80%以上の合格が84%（3月末）	A	・学力差がある中、先生方が「粘り強く取り組んでいることが数値に表れている。	・基礎計算力、漢字の読み書きの基本を継続した新たな取組を実施する。	
	○読書科の充実	・「調べる学習コンクール」に参加させ、本で調べたり、探究したりする力を高めている。	・2～6年生の児童に、夏季休業中に取り組ませ、発表させたりする機会を設ける。	A	A	A	・全校集会で説明をし、全員が取組、作品を見合った。校長賞を始め、30人以上を表彰した。	A	・「調べる学習コンクール」を全員で取り組み、頑張った児童を表彰する、それも30人以上もとてもよい取組だと思う。	A	・「優秀賞」受賞児童が出たこと、また全校朝会で表彰したことで、取組への意識付けができた。	A	・今年度からの新たな取組である中、子どもたちも頑張り、校長賞など先生方も工夫し、さらに優秀児童が出たことはすごい一言である。	・今年度から取り組み始めたこと。来年度も内容を改善しながら継続して取り組む。	
体力の向上	○個に応じた体力向上の充実	・「体力スタンダード」を作成し、授業改善及び児童の基礎体力の向上を図る。	・児童アンケートで持久力に関する項目で90%以上の肯定回答。	C	A	C	・「体力がついたと実感できた」「運動が長く続けられるようになった」との回答が61.6%。	B	・大杉小の課題として「体力が低い」と聞いている。60%を超えていることはよい傾向。	A	・体育の授業で「3分間走」を必ず実施、休み時間に外遊びを推奨した。その結果、校内独自で実施した2回目のシャトルランで90%以上の児童が前回の記録を上回った。	A	・体力を上げることは簡単ではない。その中で、年度末までの学校の取組、子どもたちの頑張りはとても素晴らしい。	・体育の授業で大切な「運動量の確保」「マネジメントの質」の向上を図っていく。	
		・週1回の全校運動遊びやなわとびウィークを実施し、運動習慣の定着を図る。	・児童アンケートで、意欲的に取り組む児童の回答が90%以上。	A	A	A	・「意欲的に取り組む」と回答が55.7%、「まあまあ」も含めると90.0%である。	A	・肯定的な児童の回答が90%を超えている。ぜひ現在の取組を継続し、100%達成を。	A	・児童アンケートで「意欲的に取り組む」との回答が85%と大きく9月の結果を上回った。	A	・55.7%から85%へ29.3%も上昇させたこと、子どもたちにそう実感させたことは大きい。	・児童がより意欲的に取り組むことができる体力向上策を考えていく。	
共生社会の実現に向けた教育の推進	○全教育活動を通し、人権教育の理解と充実	・道徳授業や全校朝会などを通して、人権教育を深めていく。人との関係づくりの基礎となる挨拶を特に重視する。	・児童アンケートで挨拶などの項目で80%以上の肯定的な回答。	B	A	B	・「挨拶をする」が73.7%、「相手の気持ちを考えて仲良く過ごす」が76.1%となっている。	B	・「挨拶をする」これはとても大切なことであり、人として大事なこと。目標まで少しなので、頑張って欲しい。	A	・「挨拶をする」が85%「相手の気持ちを考えて仲良く過ごす」が89%の結果。子どもたちに習慣付いてきている。	A	・「挨拶」はとても大事なことで。学校に来た時に「こんにちは」と言われたことがある。とてもうれしかったです。	・「あたりまえ習慣」を基本に人権教育、道徳教育の充実をさらに図っていく。	
	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境づくりと個に応じた指導の充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、言葉の教室との連携を実施し、児童及び保護者への支援。	・児童アンケートで落ち着いた環境と感じる肯定的な回答が80%以上。 ・関係教員の打ち合わせを毎月2回実施。	A	A	A	・「そう思う」が64.0%、「まあまあ」も含めると93.0%である。 ・毎週火曜日にSC、SSWの専門家も含め実施している。	A	・子どもにとって学習する環境はとても大事。93%の肯定的な回答はすごいと思います。このまま継続し、100%の達成を期待している。	B	・すべて子に対して「寄り添った支援」を基本に対応してきた。改善が見られなかった場合は、支援を見直す等の対応を迅速にすすめた。	B	・現在、学校現場では様々な問題がある。その中で学校が真摯に対応していると思っている。ぜひ子ども、保護者に寄り添ってほしい。	・困り感をもっている子ども、また保護者への理解を深め、支援を組織的に行っていく。	
		・「ことばの教室」と連携し、低学年のMIMの学習を向上させる。	・MIMの結果を3回以上実施する。初回と比較し、高い数値をとる。	C	A	C	・低学年で実施。分析をした上で個別指導に活かしていく。 ・MIMの校内研修も実施予定。	B	・低学年から基礎的な学習にしっかりと取り組むことは大切である。	A	・教員のMIM研修も実施し、全教員が理解した上で、取り組むことができた。	A	・時間が限られている中、子どもたちためになる研修を行っていることが素晴らしいです。	・今年度の取組を継続していく。	
不登校の・充い実じめ	○豊かな心の育成	・児童の「居場所」「活躍する場」づくりを適切に設け、誰もが安心・安全と思える学校生活とする。	・児童アンケート結果で「学校が楽しい」との項目で90%以上の回答。	B	A	B	・「学校が楽しい」との回答が50.5%であるが、「まあまあ」を含めると92.0%である。	A	・校長先生の経営方針「明日も行きたくなるみんなの学校」が着々と浸透していると感じる。「楽しい」と思えることが一番。	A	・「学校が楽しい」との回答が91%と前回より若干下がった結果であったが、保護者アンケート結果でも「学校に楽しく通っている」89%となっている。	A	・何よりも学校は楽しい場所であって行きたくなるみんなの学校の実現を全教職員でお願いします。	・学校経営方針「明日も行きたくなるみんなの学校」の実現を全教職員で取り組んでいく。	
	○いじめ防止、不登校防止研修の実施	・全教職員が、いじめ・不登校の未然防止・早期支援・早期対応への意識を高め、組織で対応する。	・いじめ防止授業と校内研修会をそれぞれ年3回以上実施する。	C	A	C	・いじめ防止授業については道徳科を中心に実施している。 ・いじめの校内研修は未実施である。今後実施予定。	B	・「いじめは決して許されない」ことを先生方が毅然とした姿勢で取り組み、いじめのない大杉小を実現して欲しい。	A	・年3回のいじめ授業の実施、学期に1回のいじめアンケート、教職員のいじめ研修も実施し、「いじめを出さない」取組を実施した。	A	・いじめは人権を侵害する大きな問題。いじめでつらく、悲しい思いをする子ども、保護者を出さないようにお願いします。	・全教職員で、いじめを絶対に許さない、不登校を出さないという共通した意識で取り組んでい	
	○教育相談の強化	・SC及びSSWとの連携強化をさらに図る。	・不登校児童〇、いじめがあった場合は年度内解決。	A	A	A	・不登校児童は〇であり、今後未未然防止に努める。	A	・不登校児童が〇はすごいことである。	A	・不登校児童は〇であり、いじめも解決に向け、早期対応及び早期解決ができた。	A	・引き続き、未然防止、初期対応、早期解決を確実に。	・今年度の取組を継続していく。	
学校の実現	○情報発信の充実	・学校ホームページ及びteamsuやtetoruなどで必要な情報を迅速に送る。	・学校HPの毎日更新。teamsuやtetoruでの定期的な情報発信。	A	A	A	・学校HPはリニューアルし、定期的に更新し、閲覧者数が増加。学校配布文書も紙レス化を推進、tetoruでも発信。	A	・ホームページが随時更新され、閲覧者も増加していることはとてもよいこと。	A	・定期的に更新し、内容の充実も図ることができた。学校配布文書もtetoruで行い、定着することができた。	A	・昨年度と大きく変わり、学校の様子がよくわかるようになりました。よく閲覧しています。	・今年度の取組を継続していく。	
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施。	・学校行事などを活用してアンケートを実施し、丁寧な説明及び回答を行う。	A	A	A	・保護者アンケートは確実に実施し、保護者からの質問には学校だより、電話等で回答。	A	・保護者からの質問に回答する学校の姿勢はとてもよいこと。今後も期待している。	A	・保護者アンケートの確実な実施し、保護者への回答も迅速かつ丁寧に対応することができた。	A	・保護者の声に耳を傾けることは大切なことです。今後も継続してお願いします。	・児童、保護者、地域の方々の声を学校経営にさらに活かしていく。	
教育の特色ある展開	○働き方改革の推進	・月1回の定時退勤ウィークの実施	・全教職員の月残業時間45時間以下にする。	C	B	C	・月平均8人が45時間以上残業している。成績等がある月では15人と多い現状である。	C	・先生方は激務であり、先生方の体調が心配。私たちは協力できることはやりたい。	B	・定時退勤ウィークの実施、月45時間以上の残業教員も大きく減少した。	A	・減少したことはよいことですが、先生方が元気でないと子どもたちも悲しいので、なるべく残業しないように。	・会議の精選を行う等、働き方改革を推進していく。	
	○教員研修の実施	・教員に必要な資質向上を図るため教員研修を実施	・より効果の高い研修を年5回以上実施。	C	A	C	・OJT研修も含め実施している。今後も計画的に実施予定。	B	・先生方の資質向上が子どもたちのためになる。	A	・ノートの指導研修、ICT研修等、教員に必要な資質向上を図るための研修ができた。	A	・ノートの指導研修までとは、子どもたちのために今後も様々な研修をお願いします。	・OJT研修を計画的に実施し、教員の資質向上を図っていく。	